

伊達政宗と仙台城

初めての場所を訪れた際、地図を念頭に入れ町全体が見渡せるところへ行くよう心掛けている。山頂、タワー、ビルの最上階など。特に日本国内の場合は各地に城が点在しており、そのほとんどが山頂とか小高い丘にある。見晴らしの良い場でなければ城の役目は果たせないのだ。

宮城県仙台市は人口 100 万人を超える東北地方最大の大都市であり、政令指定都市でもある。ここでも眺望の素晴らしさで有名な仙台城（青葉城）跡を訪ねてみた。高く積み重ねられた石垣の上の天守台には城の建物は残っていなかったが、眼前に広がる仙台市内はもちろん遠く太平洋まで望めた。

ここは 1602（慶長 7）年伊達政宗が築造してから明治初めの廃藩置県まで約 270 年に渡り伊達氏 13 代の居城となった。城の規模は約 2 万坪で徳川家康の江戸城に次ぐ大きさを誇った。仙台市街地を見下ろす天守台跡地には、勇壮な甲冑姿に身を包み馬にまたがる鋭い眼光の男。堂々たる姿の伊達政宗騎馬像であった。

安土桃山から江戸時代前期の武将で、幼少のころに右目を失明し「独眼竜」とも称される。その後、陸奥の雄としてその存在を現した。関ヶ原では徳川家康の東軍に付き、仙台藩（現在の宮城県、岩手県、福島県、茨城県、滋賀県）62 万石の武将として 70 歳の生涯を。この伊達政宗を無くして今日の繁栄著しい仙台の存在はあり得ない。



撮影 2014 年夏

